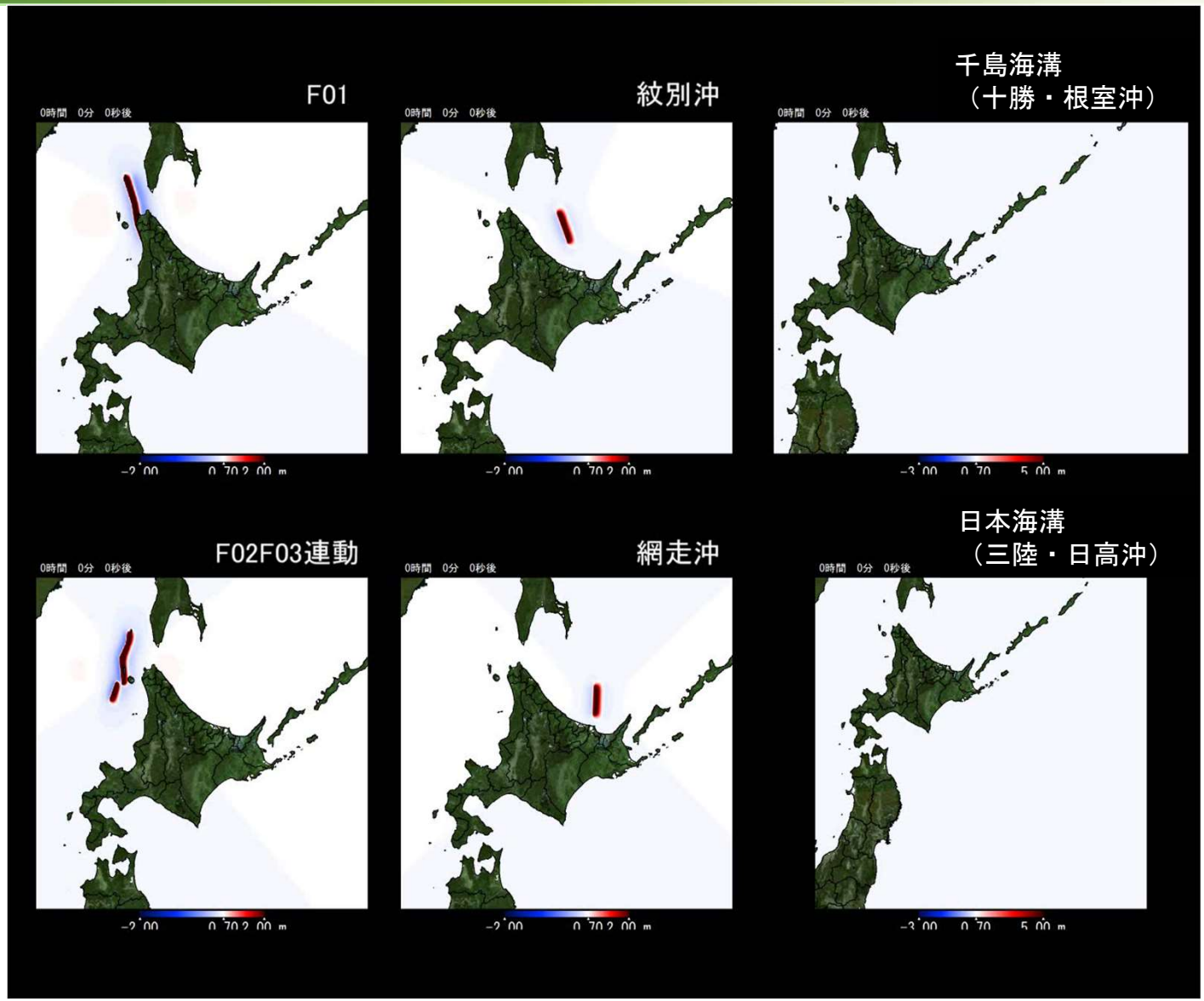
２－③　既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理



２－②　過去津波のシミュレーションによる津波高の整理
２－③　既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理

①②③の整理結果の帯図（次頁参照）

１．最大クラスの津波の設定単位

最大クラスの津波の設定は、地域海岸ごとに設定することが基本

２．最大クラスの津波の設定手順

① 過去に発生した津波の実績津波高の整理

- ✓ 痕跡高調査・津波堆積物調査・歴史記録・文献等を活用

② 過去に発生した津波の津波高のシミュレーションによる想定

- ✓ 地震発生の記録はあるが、津波高のデータが無い場合は、可能な範囲で津波浸水シミュレーション等により津波高を想定

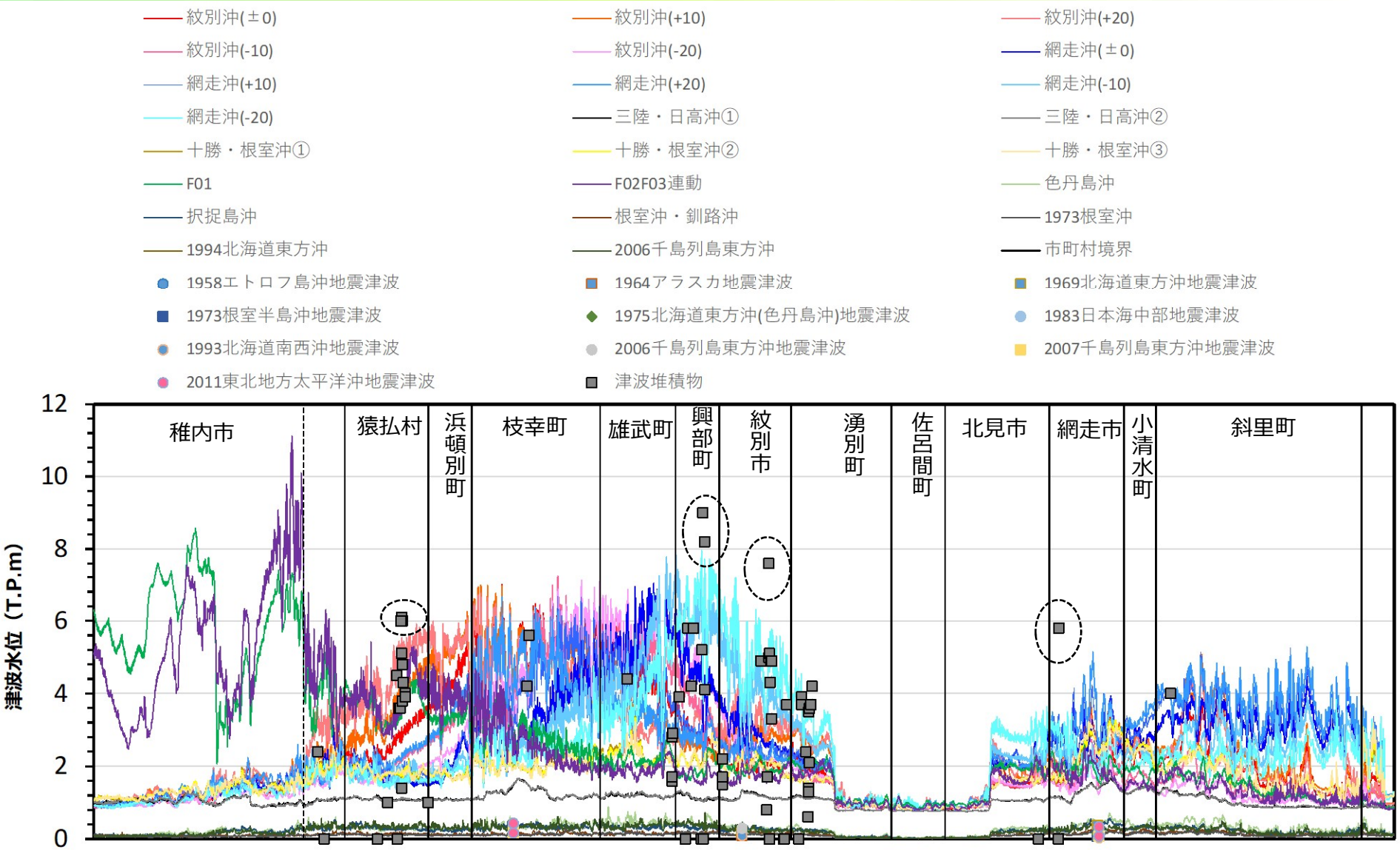
③ 発生が想定される津波の津波高の整理

- ✓ 想定地震により引き起こされる津波の津波高を整理・活用

④ 最大クラスの津波の設定

- ✓ 上記で整理した津波からグラフを作成し、津波高が最も大きい津波を最大クラスの津波として設定
- ✓ 今後、中央防災会議等において検討が進み、想定地震の規模や対象範囲の見直し等が行われた場合には、適宜見直すことが必要

２－①　過去に発生した津波の実績津波高の整理
２－②　過去津波のシミュレーションによる津波高の整理
２－③　既往想定津波のシミュレーションによる津波高の整理



参考：津波堆積物：猿払村

■津波堆積物の有無および確実度に関する判定区分　　出典：地質研究所 調査報告書 No.42、2015

確実度			説明	例
津波堆積物あり（イベント堆積物を認定した場合）	1		識別基準（下欄：a～e）を複数満たす。	
	2		識別基準（下欄：a～e）のいずれか一つを満たす。	
	3		識別基準を満たさないが、後背斜面や他の給源（人為含む）から由来した可能性が極めて低いと考えられる場合	
	4	▲	**後背斜面や他の給源（人為含む）から由来した可能性がある場合。**	**高潮・高波、飛砂、河川洪水や背後の斜面からの供給の可能性があるもの。人為の可能性があるもの含む。**
津波堆積物無し（根拠が十分な場合）	A1	×	連続的で、かつ現在から数千年程度の時間幅をもつ地層中に、既知／未知の津波堆積物が全く無い。	年代が決定された厚い泥炭層に、砂層がまったく挟まれない場合など。
	A2		既知の津波堆積物が無い	歴史津波の堆積物が無いことが確認されたが、それより古い記録の有無については判断できないような場合
津波堆積物無し（根拠が不十分な場合）	B	■	津波堆積物が無いが、地層記録の年代幅が不十分、不連続あるいは不明な場合。	薄い泥炭層、侵食による欠如、表層部の人工改変など。
検討が不可能（イベント堆積物の探索が可能な地層が残されていない）	C1	●	地層が形成／保存されていない	岩礁、岩盤露頭等
	C2	●	人工改変による調査不可能	盛土、切土
検討が困難（地層が残されているが、地層の性状によりイベント堆積物の検出が困難な場合）	D	●	検討した地層中からイベント堆積物を検出することが困難	砂丘砂や、全体が粗粒な斜面堆積物など、津波堆積物の検出が困難な場合

高潮?は、文献記載の表現

■H23.3津波浸水予測図